

第4回 小瀬川河川整備懇談会 (議事要旨)

開催日時：平成26年9月16日(火) 10:00~12:15

場 所：大竹会館 2階 大集会室(広島県大竹市)

出席委員： 河原 能久 (広島大学大学院工学研究科教授)
関 太郎 (広島大学名誉教授)
瀧本 浩一 (山口大学大学院理工学研究科准教授)
永井 明博 (岡山大学大学院環境生命科学研究科教授)
畠中 昶隴 (大竹市文化財審議会委員長)
藤野 完二 (環境省登録環境カウンセラー)
村上 恭祥 (元広島県水産試験場長)
森江 堯子 (NPO法人国際環境支援ステーション副理事長)

8名出席

【規約の変更について】

- ・事務局より規約の変更箇所について説明。委員の賛成により同意。同日付で変更。

小瀬川河川整備計画スケジュール(案)、意見聴取アンケート(案)について

【委員】

- ・募集葉書の記載欄が小さく記入しにくいのでは。利水に説明が抽象的で不十分であるため、用途別取水量の比率等の具体的な数値を示すようお願いしたい。

【事務局】

- ・回答欄の構成については、記入し易さを考慮するよう再考する。利水の説明については、具体性が増すよう考えたい。

【委員】

- ・治水で津波に関する記載があるが、自治体の大竹市・和木町は住民に対して津波に関する周知はしていない。混乱を避けるため、津波に関する情報を住民に提供することについて大竹市・和木町と調整をお願いしたい。

【委員】

- ・重点的に意見聴取したい事項を中心としたアンケートの方法もあるのではないかと。

【事務局】

- ・アンケートは原案に対して、幅広く様々な意見を頂くことを考えている。

【委員】

- ・ 回答欄は分けて、1 つにして自由に意見を記述してもらう方が書きやすいかもしれない。事務局で検討をお願いします。

小瀬川水系河川整備計画 原案（案）について

● 治水について

【委員】

- ・ 流域図の箇所毎に治水の課題を記載したものを作成し、整備箇所の説明と併せて示すと分かり易いのではないか。
- ・ 整備箇所を記載した図には番号ではなく整備内容を記載するように工夫して頂くことで、どこでどのような整備を実施するかが分かり易いと思う。

【委員】

- ・ どのような手順で整備を進めるのか、なぜここを優先して整備するのかということが分かるものがあると理解し易い。

【委員】

- ・ 整備後の流下能力図において、整備後も目標流量に達していない箇所があるが、これは山付であると考えてよいのか。山付であっても道路がある場合は、道路が浸水するので、その時の対策はどうするのか。

【事務局】

- ・ 背後地等に守るべき資産がない区間、例えば山付等は対策箇所として位置付けていない。また、山付区間に道路があれば、事前に通行止め等を実施して被害を防止することを考える。

【委員】

- ・ 整備後も目標流量を流せない区間は山付等のコメントを入れるべき。

【委員】

- ・ 流下能力図に計画高水流量だけでなく、整備計画の目標流量も記載した方がいい。
- ・ 雨水貯留、雨水浸透等の流域対策は具体的に何か考えているのか。

【事務局】

- ・ 流域対策を比較案の1つとして検討したが、小瀬川は山付等が多く氾濫域が狭く適地等がないため、比較案の対象としていない。大竹市や和木町等の堤内地が広い地区では、内水の甚大な浸水実績がなく、総合内水対策事業として雨水貯留、雨水浸透等の整備メニューを比較案として立案していない。

【委員】

- ・ 大竹の市民は国交省の整備に満足しており、洪水・津波・高潮等に関心がないが、旧大と本流とが合流する箇所が切れれば、大竹は床下浸水以上の被害となるため、注意を払うべき。

【事務局】

- ・地域の方々が整備によって安心されていることは、前回のアンケートでも把握できているが、昨今の災害発生状況より地域の方に積極的に情報提供していくべきと考える。
- ・内水被害については、排水ポンプ車の派遣等の支援を図っていきたい。
- ・小瀬川の支川は溪流のように水の勢いが大きいいため、合流点処理等に必要なものは実施していきたい。

【委員】

- ・地元の方の経験に基づく意見については、よく尊重していくべき。
- ・内水氾濫に対して市町との情報連絡はあるのか。

【事務局】

- ・関係市町で被害が発生した場合、市町からホットライン等で支援要請があれば、協定、支援等に基づき広域的に派遣し対応している。

●利水・環境・維持管理について

【委員】

- ・小瀬川水系のみならず、傾斜の厳しい箇所地区が形成されているため、避難訓練、避難施設の設置等について、国・県・市町が共同で対応してほしい。
- ・木野2丁目に位置する多くの家の裏は70度くらいの傾斜となっている。急な豪雨時には避難しにくいこともあり、また、市が訓練を実施したということも聞いていないため、国から指導してほしい。

【委員】

- ・どこかに記載するようお願いしたい。

【事務局】

- ・原案で、洪水ハザードマップの支援、水位情報等の提供などの箇所で記載している。

【委員】

- ・市に説明されるときは、そのようなことにも注視し重点的に実施するよる話をしてほしい。

【委員】

- ・流況の問題は河川環境にとっても非常に重要であると思う。例えば11月頃から冬にかけては正常流量が確保できない状態がかなりの頻度で発生している。アユは11月頃に稚魚が下流へ下るが、自力で泳げないため流量に支配される。秋に多くの稚魚が流された翌年には、多くのアユが遡上しているという事実がある。シラスウナギは1月～2月の水が少ない時期に河川の流量を感知して小瀬川に向かっていく。小瀬川の流量が少ない場合はウナギを呼び込むこともできない。遡上してくるアユを小瀬川に引っ張り込むのも流量の力である。その時期に流量が不足するというのは、非常に大きな問題を投げかけて

いる。

- ・外来魚がダム湖の中だけに生息するとのことであるが、中市堰の背水区間に外来魚が増加すると、海と川を往来する魚が食べられてしまうため、非常に注目していく必要がある。中市堰の背水区間に外来魚が入ってきているのか、または、入ってこないような対策について記載をすべき。
- ・小瀬川の特徴の1つに、弥栄ダム、渡ノ瀬ダム等のダムから流下する水に依存していることが挙げられる。ダム毎に水質や水温が異なり、急に毎日変化することは魚の生態にとって影響が大きい。このため、ポイントで定時観測をする調査を水質調査に記載してほしい。
- ・河道の粗粒化についての説明があるが、魚にとっては浮き石状態なのか沈み石状態なのかが気になる。ウナギ、ナマズは石の下の穴に住むため、浮き石の穴の数だけ住めると考えてもいいくらいである。浮き石状態にするために河道攪拌するなどの維持をお願いしたい。

【委員】

- ・粗粒化するというだけでなく、それがどのような役割を果たしているかということまで記載しないと実質的な説明にならないとの意見であるため、書き込めるところはお願いしたい。

【委員】

- ・BODだけを水質の物差しにするのはやや問題があると思う。小瀬川に係る新しい水質指標として図が掲載されており、河床の状態があまり良くないとなっている。また、河川河床の底質にはほとんど述べられていない。地域の人々が川に親しみを持ってもらうためには、河床のヌルツとした感じ、臭いなどは川の長期的な展望において大切なことだと思う。地域の方とこの調査を継続されて原因や底質について表記してほしい。
- ・外来生物のオオキンケイギクが法面に多くみられる。きれいな花であり若い人達が持って帰るということをよく口にしてしている。人が外来植物を広めることを避けるため、啓発活動を取り入れてほしい。

【委員】

- ・底質については事務局で記載内容を検討していただきたい。外来種の啓蒙については、記載するかどうかは別にして、活動が必要であり事務局と相談する。

【委員】

- ・小瀬川のアンケートについて、閲覧に廿日市市が入っていないため、廿日市市側の意見が出せるように検討すること。

【委員】

- ・事務局で検討してほしい。

【委員】

- ・文章表現の修正についての提案として、概要版の27ページ(14)番「地域水防力の向上」

は「防災・減災力の向上」に、(14) 番、「災害発生時」は「災害に備えた地方公共団体の支援とか流域関係者の支援」に、「利用した活動の場や機会の提供を行う等、自助・共助・公助が」は「利用した活動の場や機会を通じて自助・共助・公助が」に修正すべき。

- ・住民へのリスクコミュニケーションについてもう少し記載してほしい。大竹市等が防災訓練を実施するならば、市町村を支援するという言葉を入れるなどをお願いします。
- ・防災エキスパートの言葉の意味が分からないため、注釈をお願いします。

【委員】

- ・維持管理における地域住民との関わり、地域の人を利用する形での維持管理について記載をお願いします。

【委員】

- ・1999年の佐伯区での土石流を契機に「広島西部山系」という砂防計画が太田川河川事務所で作案された。小瀬川は西部山系から外れているが、西部山系に指定されるとどのようなメリットがあるのか。

【事務局】

- ・広島西部山系は国が実施する砂防事業のエリアである。砂防事業は県が実施する仕組みになっており、土砂災害の危険箇所は知事が調査して結果を公表している。条件が難しい区域や事業費がかかるような区域は国が直接実施する制度になっている。国の直轄事業のエリアが県に影響することはないと思う。

【委員】

- ・土石流の危険区域については、直接河川には影響がないが、土石流は川にも影響することを考えると国が市町を後押しして啓発をお願いしたい。

【委員】

- ・昨今、対応能力を上回る豪雨等が整備計画途上で発生していると感じている。この整備計画案が決定して公開、実施に至るにはどの程度の時間を要するのか。

【委員】

- ・30年が目安である。大きな災害や温暖化の影響が強くなるようなことがあれば、見直しもあるかもしれない。

【委員】

- ・了解。

【委員】

- ・他に意見があれば、事務局へ送付をお願いします。
- ・委員の方々からの意見を整理し、整備計画（原案）の修正案を作成し、事務局と私とで確認し、前へ進めていきたい。（委員の賛成により同意）

<以上>